

研究課題名	肝癌の肝切除症例に対する門脈侵襲および予後に影響を及ぼす因子に関する観察研究
研究の意義・目的	肝癌は外科的手術による肝切除を行っても、治療後の癌再発率は他の癌と比べると極めて高率であります。現在は有効な補助療法は確立されておらず、治療後の再発を抑えることが癌治療において重要な課題です。本研究では、肝癌再発のリスク因子である門脈侵襲関連蛋白質の発現と病態進展・予後との相関性を調査し、予後因子としての有用性の検討および肝癌の病態を解明し診断・治療へ貢献することを目指し研究を行います。
研究を行う期間	研究機関の長の研究実施許可日～ 2026年3月31日
研究協力をお願いしたい方(対象者)	倫理審査委員会で承認された臨床研究にて研究期間中に大阪市立大学医学部附属病院の肝胆膵外科で肝癌と診断され外科的治療をされた方の保存された臨床検体が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	過去にご協力いただいた研究(「肝疾患に対する肝切除症例における周術期および長期成績に影響を及ぼす因子の検討」承認番号 3815)でご提供いただいた下記項目を本研究に使用させていただきます。 試料:【病理組織検体】 診療情報等:年齢、性別、身長、体重、既往症、併存疾患、肝疾患(原発性肝癌(肝細胞癌、肝内胆管癌、混合型肝癌、その他悪性)、転移性肝癌、良性疾患)、治療歴、化学療法・分子標的薬・免疫チェックポイント阻害薬治療歴 血液検査結果:白血球数、赤血球数、ヘモグロビン、ヘマトクリット、血小板数、CRP、尿素窒素、クレアチニン、総ビリルビン、アルブミン、ICG15分値、プロトロンビン時間、PT-INR、AST、ALT、4型コラーゲン7Sドメイン、HCV-RNA、HBV-DNA、AFP、PIVKA-II、CEA、CA19-9、DUPAN-2
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪市立大学医学部附属病院肝胆膵病態内科および肝胆膵外科のみで行い、他の機関に試料・情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪市立大学医学部附属病院肝胆膵病態内科および肝胆膵外科のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪市立大学大学院医学研究科肝胆膵病態内科学 研究責任者 松原 三佐子
本研究の利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。 学会・論文・HPなどで研究の成果を公表します。
連絡先	大阪市立大学病院 肝胆膵病態内科学 (担当者氏名) 特任講師 松原 三佐子 電話番号:(06) 6645-3905 メールアドレス:mmatsubara@med.osaka-cu.ac.jp